

1年の計は元旦にあり ～ 四計 ～

R3.1.7

新しい年を迎えました。皆さん、あけましておめでとうございます。今年も、先生全員で、皆さんと一緒に、素晴らしい1年にしたいと思っています。よろしくをお願いします。

さて、皆さんは、「一年の計は元旦にあり」という諺や、その意味が「一年間の計画や目標は、その年の初めに決めるのがよい」ということについては、よく知っているのではないかと思います。その由来について知っていますか。

諸説あるそうですが、その1つに挙げられるのが、中国の明代に馮慶京（ひょうおうきょう）という学者が著した書物「月令広義」です。「月令広義」には中国の伝統的な年中行事やしきたりが解説されていて、その中に「一日の計は晨（あした）にあり、一年の計は春にあり」という一文が記載されています。その意味は、一日の計画は朝にきちんと立てなさい、一年の計画は元旦に立てなさいというものです。

これが由来とされていますが、実は、この文には続きがあり、「一日の計は晨にあり、一年の計は春にあり」のあとに「一生の計は勤にあり、一家の計は身にあり」という言葉が続きます。

一日の計は晨にあり（一日の計画は、朝にきちんと立てなさい）
一年の計は春にあり（一年の計画は、元旦に立てなさい）
一生の計は勤にあり（一生は、まじめに働くことで決まります）
一家の計は身にあり（一家の将来は健康に過ごすことで決まります）

全体としては、当初に計画を立てることで日々の充実度が決まり、勤勉に働くことで一生が決まり、健康維持により家族の将来が決まるという意味になります。この中の「一日の計」「一年の計」「一生の計」「一家の計」を合わせて「四計（しけい）」といい、自分の生き方を充実させるための四つの計画で、よい人生設計には欠かせない大切な計画とされています。

学校生活での元旦は、3学期始業式の今日になります。そこで、錦中のことを、この四計に習って考えてみると、「叶えたい夢」を叶えるため、「なりたい自分」を目指し、この1年間に取り組む自分の目標を早々に立てましょう。夢や目標の実現に向けて、これから日々努力していきましょう。そして、心と体を鍛え、コロナの感染予防も含め健康管理もしっかりやりましょう。そうすれば、自分らしい素敵な生き方ができますよ、ということになるかと思います。

今日から始まるこの3学期は、各学年の仕上げの期間であり、次なる学年に繋げるための準備期間として重要な意味を持っています。皆さん一人一人が自分の目標をしっかりと持ち、日々努力し、心も体も元気で、よりよい学校生活を実感できるそんな3学期にしてほしいと思います。才鴈

